令和８年度　立川市立第一小学校　授業改善推進プラン

学校の教育目標	○自分で考え行動する子　　◎心豊かで思いやりのある子　　○体をきたえ元気な子

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
○基礎学力を基盤に、諸能力を活用し、協働して問題解決に努める力 ○他者を思いやった行動ができ、すすんで共助・共生に努める力 ○自他の健康安全に配慮でき、すすんで心身の健康の保持増進に努める力	・校内研究と連動した問題解決的な学習を通した学力【思考力、判断力、表現力等】の育成及び非認知能力の向上 ・一人１台タブレット PC の効果的活用を含めた個別最適な学びと協働的な学びの充実及び児童の学習意欲の向上

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○相手の話の大切なことや中心部分などに気を付けて正しく内容を聞き取るとともに、自分と相手の話を関係付けながら話し合い、考えを広げたり深めたりする力。 ○目的意識（誰に、何のために）をもって、自分が伝えたいことが相手に伝わるように学年の実態に応じた工夫を取り入れながら文章を書く力。 ○目的意識をもち、文章中の叙述から必要な事柄を探しながら読み取るとともに、読み取った事柄について自分の考えをもつ力。 ○語彙を豊かにするとともに、既習の文字（漢字を含む）をあらゆる生活場面ですすんで使う力。	・常に目的意識をもち主体的に取り組めるように、事前に必要な情報を確認したり、大事な言葉（キーワード）をメモしたりしながら話し合うようにさせる。必要に応じて、モデルとなる話し合いの方法を提示し（高学年は、既習内容を踏まえ、児童自身が想起できるようにする）、理想とする話し合いのイメージを共有できるようにする。 ・主語と述語等、語句の関係に注意をしたり、「誰に」「どのような目的で」文章を書くのか教師が声掛けを行ったりすることで、一人一人が明確に目的意識をもって書けるようにする。また、モデルとなる文章を提示し、文章全体の構造や表現の工夫について確認できるようにする。 ・最初の段階で、文章の構造を確認するとともに、物語や説明文をどのような目的で読むのかを、児童自身に見通しをもたせ、そのために必要な手がかりとなる叙述（言ったこと・行動・様子・気持ちなど）を共有できるようにする。 ・目的意識をもち、すすんで友達と交流して考えを共有し合い、互いの考えをさらに深められるようにする。 ・ひらがなや新出漢字の練習時に、意味や関連する語句などを踏まえた練習を継続するとともに、既習の漢字を使って文章を書くよう常に意識させる。語彙数を増やすために、読書活動の充実や国語辞典の活用及び言葉遊びなど、言葉を意識する環境作りに努める。
社会	○社会的事象について、主体的に学習問題を解決し、社会生活に生かそうとする力。 ○社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことを適切に表現したりする力。	・児童が主体的に資料を読み取ったり、調べたり考えたりできるように、教科書や資料集を基本として柴崎図書館から参考図書を借りたり、タブレット PC を活用できるようにしたりする。また、情報の収集やまとめなどが行えるように指導計画の工夫をする。 ・疑問に思ったことや分かったこと、考えたことをペアやクラス全体などで共有できるようにする。友達から学んだことを付け足したり、修正したりすることで、新しい考えをもてるように指導する。 ・効果的にまとめている児童のノートを例示し、まとめ方のイメージをもたせる。 ・自分の生活と関連付けて考えられるような振り返りの時間を設定し、学習内容を深められるようにする。
算数	○考えを順序立てて説明したり、どのような解き方をしたか、分かりやすく説明したりする力。 ○問題の内容を理解し、確実に解く力。 ○問題に対して自分の考えをもち、複数の考えの中から共通点や相違点を見いだす力。	・文章問題を解く際には、どの言葉に着目することで正しく立式できるのかを考えさせ、確かめるように指導する。 ・自分の考えを書く際に、具体物や図、絵、数直線、言葉などを積極的に活用するように指導し、児童が図や言葉、式などを相互に関連付けて説明できるようにする。 ・複数の考えを比較する時間を設け、共通点や相違点を見いだす力をつけるようにする。 ・問題を解き終わった際、聞かれていることに答えているか、単位の間違いがないか確かめるよう指導する。また、途中計算や筆算を丁寧に書くなど、ミスが減るように指導する。 ・個別最適な学びの充実に向け、デジタルドリルを効果的に活用する。 ・自ら答えを導き出せるようにするための支援として、ヒントカード等を活用して思考力を高めていけるようにする。
理科	○自然の事物や現象から問いを見いだし、解決の道筋を構想する力。 ○科学的な根拠に基づき、多面的に考察してより妥当な考えを形成する力。	・「問題」、「予想と根拠」、「実験と結果」、「結果から分かったこと（結論）」といった１単位時間の学習展開を定着させるために、ノートの作り方を示して可視化したり、学習用端末等を活用して実験や観察の流れを明確化したりする。また、それらを結び付けながら学習を進めていくように促す。 ・実験や観察の前に、学習問題を確かめたり、結果の見通しをもって小集団で方法を検討したりすることで、実験や観察の目的や知りたいことを明確にして取り組めるようにする。 ・結果からどのようなことが分かるのかを小集団で交流し、学習問題と結び付けながら、「結果」から「結論」へと考えを深められるようにする。 ・事実や結果について、自分や他者の気付きを明確にし、相違点や共通点を基に調べたいことについて話し合い、次の学習につながる問題を見いだす学習活動を取り入れる。また、自分の生活と関連付けて考えられるような振り返りの時間を設定し、学習内容を深められるようにする。

生活	○自然の変化や季節の様子など、気付いたことをくわしく、カードに絵や文で表す力。 ○すすんで発見したり気付いたりする力。 ○季節や時期に合った動植物についての知識を広げる力。 ○身近な人に目を向け、自ら関わりを広げる力。 ○自分の思いや願いを伝え合ったり、試しながら感想を伝え合ったりする力 ○活動を見つめ直して軌道修正したり、新たな課題を見付けたりして、活動を発展させる力	・観察をするときには、毎時間、色や形など観察の観点（におい、手触り、色、大きさ、形、数など）を繰り返し確認し、同じ形式のカードで観察をすることで定着を図る。また、カードに書くことを苦手としている児童には、観察の視点を絞ったり、できている児童のカードを共有したりして個別に支援を行う。 ・自然の変化や季節の様子について、気付いたことを書いている児童のカードの書き方を、電子黒板等を使い共有できるようにする。 ・地域の特徴や身近な人たちの思いや願いに気付けるように、活動のめあてを明確にし、体験的に学べるようにする。 ・興味関心が高まるような遊びや制作活動を行うとともに、児童自らの発見や気付きができるように、振り返りの時間を設定し共通理解を図る。 ・実物や図鑑、ICT 機器などを積極的に活用する。
音楽	○歌唱、器楽・鑑賞の基礎・基本を身に付け、思いや意図に合った表現を工夫したり、音楽のもつ豊かな表現を味わって鑑賞したりする力。 ○様々な音楽に親しみ、主体的に音楽と関わったり、友達と協働して楽しく音楽表現をしたり発表したりする力。 ○音楽を通して達成感や充実感を味わい、自ら生活を豊かなものにしていく態度。	・丁寧な説明とスモールステップを意識した練習曲を積み重ねて、楽しみながら基本的な技能が身に付けられるようにする。 ・曲について考えたことや感じたことを友達同士で話し合う活動を取り入れる。また、聴き取ったこと感じ取ったこと、気付いたことの関わりについて考えを整理したり、深めたりすることができるよう、発問を工夫する。 ・学習用端末等を活用し、よりよい表現を目指す活動を取り入れる。 ・表現活動の時間を十分に確保し、技能を習得したり、いろいろな表現の仕方を試したりできるようにする。また、友達と音を合わせて一緒に演奏する楽しさを味わえるように、演奏曲、演奏形態、編曲を工夫する。
図画工作	○用具の適切な使い方を身に付けたり、材料の特徴を生かしたりして、自分の表したいことに合わせて用具や材料を選択して表現する力。 ○自分の表したいことを見付けたり、自信をもって表したりする力。 ○表現をしながら自分の思いを深めたり、さらに工夫して表すために材料に働きかけたりする力。 ○自分の表したいことに向かって、粘り強く取り組む態度。	・既習事項を生かしながら、自分の表したいことが表現できるように用具や材料を適切に選択したり、生かしたりして工夫して表すことができるように指導する。 ・作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりしながら、自分の見方や感じ方を深められるよう指導する。また、鑑賞と表現の一体化を目指し、肯定的な声掛けをし、一人一人の感じ方や思いを認めることで、表現の幅を広げていくように指導する。 ・図工の授業内での活動にとどまらず、様々な場面において、形や色などと豊かに関わる資質・能力を働かせることができるように、身の回りにあるアートにも目を向けさせ、造形的な見方や感じ方を深められるようにする。 ・自分の表したいことが自信をもって表せるような声掛けをしたり、諦めずに、粘り強く取り組めるような環境や時間を確保したりする。
家庭	○学習した内容をさらに深め、多様な考えを生み出せる力。 ○学習内容を日常生活で実践しようとする態度。	・児童の日常生活に身近な例を取り上げ、意欲的に考えられる問題設定をする。また、問題に対して多様な答えが生まれるよう、小集団での話し合いから、全体での話し合いへと広げる。 ・家族の一員として、家族のために自分にできる家事を見付けてすすんで取り組もうとする心情が高まるよう指導する。
体育	○自らすすんで運動に取り組み、運動に慣れ親しむ力。 ○各自がめあてをもって取り組み、課題解決に向けての学習ができる力。 ○友達同士の話し合いで助言し合える力。 ○授業で取り組んだことが、日常生活（運動・生活習慣）に生かせる力。 ○自分自身が運動を「する」だけでなく、「見る・知る・支える」という体育的な見方で運動やスポーツに親しむ態度。 ○２０ｍシャトルランや５０ｍ走などの「走」の力の高まりを捉える力。	・縄跳び旬間やペースランニング旬間では、向上心をもって取り組むために、学習カードやタブレット PC を活用してめあてを意識させ、技能や体力の高まりが実感できるようにする。 ・各運動領域の特性に注目させ、挑戦したいことや自己の課題について考えさせてから目標を設定し、体力・技能の向上を図る。また、体育的な見方を働かせられるよう指導を工夫し、各運動領域特有の楽しさを味わえるようにする。 ・準備運動や各運動領域に合わせた補助運動などで、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。また、年間を通して走力向上に関する運動（鬼遊びやサーキットトレーニングなど）を取り入れ、走力向上を図る。 ・個人やグループで課題を見付け、その解決に向けた話し合いや練習ができるように授業を行ったり、各学年の実態に合わせた場やルールを設定したりするなど、誰もが運動に慣れ親しめる工夫を行う。 ・単元ごとに振り返りを行い、体力や技能の伸びについて分析・実感させ、今後の運動・生活習慣について考えさせる。 ・友達同士で技を見合ったり、タブレット PC を活用して自分自身の動きと正しい動きを確認したりし、自身の課題と粘り強く向き合い、解決できるようにする。
外国語	○英語に親しみ、自分の思いや考えを英語で伝える力。 ○自分の考えや思いを積極的に英語で話したり、聞いたりする力。 ○身近な英単語や表現を書くことに親しみ、なぞり書きや写し書きができる力。	・楽しみながら英語に親しむことができるよう、ICT 機器や ALT を活用し、英語でのやりとりや友達と意見交流をする等のアクティビティを多く取り入れる。 ・単元のゴールを明確にして示し、その単元で使う単語や表現を声に出して繰り返し練習することで、どの児童も自分の思いを表現できるようにする。 ・４線の上に正しくアルファベットが書けるように、実態に応じてなぞり書きや写し書きに取り組ませ、無理なく楽しみながら活動できるようにする。